

まいんど マインド Mind

藤田 庄市

ジャーナリスト

シリーズ <37>

統一教会の伝道・教化活動は違法

統一教会の伝道・教化活動は違法

文鮮明が9月3日に死去した。93歳だった。教知れぬ人々の人生や家庭を破壊し、大金を収奪したカルト教団統一教会の教祖として、その名は宗教史に刻まれるであろう。教団は9月15日に行われた韓国・チョンジョンでの葬儀までに、約3万人の日本人信者が1人12万円を持参して弔問せよと指示した。実現すれば36億円が玄界灘を渡った勘定になる。

一方、東京では7日に全国霊感商法対策弁護士連合会が11月に56回(年2回)の全国集会を開いた。元信者や家族など約180人が参加した。その盛況ぶりは変わらぬ被害の深刻さを反映している。集会の中でも注目されたのは、郷路征記弁護士による3月29日の札幌地裁における勝訴報告だった。

「統一教会(元)の被害」の本質は金を取られたこと自体ではない。人の心が変わらされてしまう。人格改造されてしまう。それが根本(にある)。(ある)冒頭に郷路弁護士はそう獅子吼した。25年間にわたる同弁護士の主張である。同裁判は、元信者ら63人が総額約6億6500万円の損害賠償を統一教会に対して求めたもので、橋詰均裁判長は「違法な布教活動が組織的に行われていた」として約2億7900万円の支払いを命じた(北海道新聞3月30日)。だが、判決

決の賠償命令額のみをみれば、原告請求額の4割強にすぎない。それがなぜ「勝訴」なのか、着目すべきは、さきの郷路発言と判決の「違法な組織的布教活動」であろう。判決は、地元メディアを除き、地元メディアを除外し、インターネットではほとんど報道されなかったが、宗教被害における信者の自由、宗教活動の自由の限界について、歴史的ともいえる判断が下されたのである。

判決はそうした前提に立ち、統一教会の伝道・教化活動の特徴を四つ挙げる。そうして、それぞれが自由な意思決定を歪めているゆえ、違法である、と判断したのである。判決その部分の骨格を列記しよう。(カギ括弧内は判決文)

(一)「伝道における宗教性の秘密」統一教会信者は布教において、街頭でのアンケートや戸別訪問などによってヒ

つたことである。(二)「入信後の宗教的実践内容の秘密」

次いで統一教会であることが明かされ、入信した後も以下のような「宗教的実践が求められることが秘匿されている」。

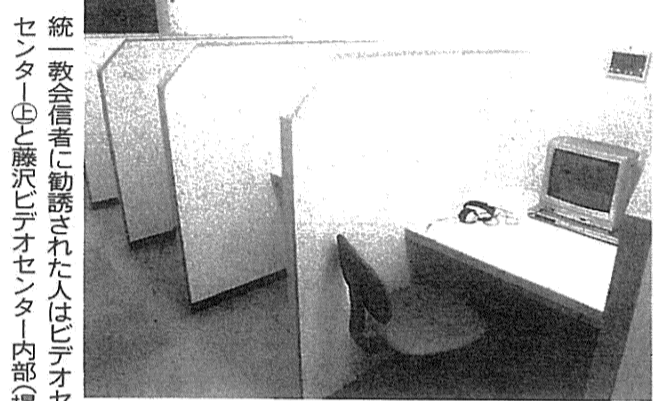
①入信後すぐに「罪の清算」として保有する金銭すべてを教会に捧げられる。②統一教会の反社会的性格が明確に表れる場面である。③やがて信仰のゴールとして「文鮮明が指定した相手と合同結婚式で結婚する」ことが求められる。韓国農村部を中心に約700

自由な意思決定を歪めるもの 札幌地裁判決

デオセンターに勧誘するは「自由な意思決定に基づき、統一教会であることは、もちろん、宗教であること」を徹底して隠す。センターでは旧約聖書や霊界に関するビデオで教育し、感情的人間関係を意図的につくり

0人の日本人女性信者が韓国男性と結婚して渡韓しており、悲劇が生じている。宗教であることが隠されたまま、それも統一教会の信仰を持たされてしま

「結局、伝道と集金によって行われる」。ちなみに万物復帰とは「サタンの支配下にある万物(お金)を神(統一教会)の側に取り戻す」ことを実践的に意味する。ところが与えられる目標は高く、達するのが不可能な場合が多い。が、達成できないのは信仰が足りず、使命を果たしていないからだと信者は教化され



「統一教会信者に勧誘された人はビデオセンターでビデオを視聴する。横濱ビデオセンター④と藤沢ビデオセンター内部(撮影：鈴木エイト氏)」

かかわらず統一教会は相変わらず活動を一向に改めようとしない。驚くべき違法精神の欠如である。これに対し統一教会を所轄する文部科学省は漫然と事態を放置していたという批判が被害関係者の中で根強くあった。7月3日、元信者によって東京地裁に提訴された損害賠償訴訟は、統一教会とともに国をも被告とした。この背景にはそうした批判がある。統一教会の元信者から国が訴えられたのは、現在係争中の鳥取地裁米支部に続き、例目となる。凶器と化した宗教団体から国民をどう守るのか。国の対応が注目される。最後に私的な思い出である。カルト問題の取材を本格的には始めた17、8年前のこと。その本質が何なのか、なかなか把握できず七転八倒していた。その時、郷路弁護士から「統一教会は、信者の自由の侵害、憲法違反」と懇切丁寧に教示を受けた。それを土台にしながら、さらに取材をと思案を進め、自分なりにカルト問題の本質にあるのは「スピリチュアル・アヒュース(霊性虐待、信仰虐待)」であり、「精神の自由の侵害(精神呪縛)」であると認識するに至った。とはいえ、内実は郷路理論にほとんど重なっている。

ふじた・しよついち／1947年東京生まれ。大正大学卒(宗教学専攻)。フオトジャーナリスト、日本写真家協会会員。現代宗教、カルト、山岳信仰、民俗宗教、宗教と政治など宗教取材に従事している。著書に『行とは何か』『熊野、修験の道を行く』『宗教学事件の内側』『明治神宮 祈りの杜』など多数。